地球に優しいカメ

武本成十（NOSAI 職員 OB）

20 年前にペットショップで買ったミドリガメが、今では甲羅の直径が 25ｃｍ、体重2,7Kg。百均で買った直径60cmくらいの水を張ったボウルが飼育箱。家が狭いので、玄関に置いています。おかげで、訪問客との会話が弾みます。

毎日、狭い環境なので、ストレス解消のため土日・祝祭日・盆正月は甲羅を亀の子タワシで洗って、ドライヤーして家の中を自由散策させます。

毎日の世話は給餌と水替え。食欲の無い時期は週 1 回、旺盛な夏は朝晩 2 回水替えします。

カメの 1 年を観察すると、非常に省エネであることが分かります。12～3 月の 4 ヶ月間は発砲スチロールに溜めた水の中で冬眠。冬眠前後 1 ヶ月間は断食、つまり半年間は食事しなくても生活？できるんです。5 月頃から毎日 1～2 匹のエビを、6 月になると毎日 3 匹ずつのエビとワカサギを食べますが、7 月はダイエット月間、殆ど食べないで急に運動を始めます。それまで、首や、足の付け根からはみ出していた盛り上がり（脂肪）が無くなり、スッキリしてきます。そして、産卵を迎えます。このダイエットは総排泄口付近の脂肪を落とし、産卵がスムーズに行えるようにする重要な作業と思われます。

乳牛でもお産前のメタボは難産を始め諸病を誘発します。今年は 16 個産みました。産卵を終えると、乳も出ないのに猛烈な食欲。8 月の 1 ヶ月間にバナナ 8 本、スルメイカ 8 匹、ワカサギ 30 匹、エビ 90 匹をたいらげます。9 月になると、少し食欲が落ちて 8 月の 70%くらいになり、10 月には 5 月の状態に戻って、11 月は食欲喪失となります。

変温動物は体重 1kg 当たりエネルギー消費量が我々ほ乳類の 50 分の 1 といわれています。実に地球環境に優しい動物です。

皆さんも、我と思わん方は飼ってみませんか。何もミドリガメから育てなくても、近くの神社や公園の池に行くと、飼育に困って捨てられたガメがたくさんいます。

性質温順で病気知らず。気温の上昇と共に元気になり、下がると意気消沈します。

5 億年前からその形を変えないカメ。進化の必要が無い完成された姿なんです。

以前、ヒキガエルを飼っていたことがありますが、カエル（両生類）とカメ（は虫類）の違いは、カエルは動くものは、とりあえず口に入れ、食えないものは吐き出します。カメは口に入れる前に食えるか食えないか判断できます。飼い主でさえ、すべては信用していません。

最近は食えるか食えないか判断できない、消費期限表示に頼る人間が増えてきていると聞きます。世の中が便利になってきて、長い進化の過程で先祖がようやく獲得した能力を放棄しているように見えます。

あなたもカメを見習って、期限表示を頼らない、五感の生活をしてみませんか。

ミシシッピーアカミミガメ
（耳部の赤いラインが特徴）